

2022年10月26日

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ
株式会社三菱UFJ銀行

MUFGトランジション白書の発行について

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（代表執行役社長 ^{かめざわ ひろのり} 亀澤 宏規、以下 MUFG）と連結子会社である株式会社三菱UFJ銀行（取締役頭取執行役員 ^{はんざわ じゅんいち} 半沢 淳一、以下 当行）は、本日、MUFGトランジション白書（以下、本レポート）を作成し公表したことをお知らせいたします。

（ウェブサイトへのリンク）

MUFG Transition White Paper <https://www.mufg.jp/english/csr/report/transition/index.html>

MUFGは、「世界が進むチカラになる。」というパーパスのもと、2021年5月に「MUFGカーボンニュートラル宣言」を公表しました。同年6月には、国連環境計画・金融イニシアティブが主導するNet-Zero Banking Allianceに加盟し、2022年4月には電力、石油・ガスセクター向け投融資における排出量の2030年中間目標を策定しています。カーボンニュートラルの達成には、単純なダイベストメント（撤退）でなく、お客さまとの対話を通じたエンゲージメントにより、産業横断で各企業の取り組みを底上げしていきながら、国際社会とも対話を重ねていくことが重要だと考えています。

また、MUFGはカーボンニュートラルの達成に向けて、グローバルで再生可能エネルギーのプロジェクトを推進し、世界トップレベルの実績を上げてきました。2010年度から2021年度の累計で再生可能エネルギー事業へのプロジェクトファイナンス組成額は約550億ドルであり、CO2削減効果に換算すると、約210百万トンと1年間のスペインやオランダの排出量相当となります^[1]。今後も2030年までにサステナブルファイナンス累計額35兆円（2021年度までの組成実績：14.5兆円）を達成していくために、技術的イノベーションを必要とする浮体式洋上風力を含め、再生可能エネルギーの導入を最大化させるプロジェクトを積極的に推進していきます。

MUFGでは、再生可能エネルギーの取り組みに加え、高排出産業とされる素材産業、電力産業のお客さまとの対話を重点的に積み重ねてきました。

素材産業は社会生活の基礎を成す必需品（エッセンシャルサービス）です。同時に、製造過程では多くの電気と熱を必要とします。電力・素材産業のカーボンニュートラルの道筋は、地域特性により取り得る選択肢が異なり、多額の研究開発と設備投資が必要です。このことから、本レポートでは、日本のカーボンニュートラルの道筋について、地域特性などの背景を含めて取り纏め、欧米政策関係者を中心としたグローバルステークホルダーの理解を高めていくことを目的としました。全量英文にて作成し、グローバルでの認知拡大を目指しています。

MUFGは、トランジション・ファイナンスが2050年カーボンニュートラルを達成するための重要な柱であるという考えのもと、本レポートを用いてトランジションの方向性に対する国際的な理解を高め、お客さまのトランジション支援により一層貢献してまいります。

[1] 2019年。スペインの年間排出量は239百万トンと世界第25番目。オランダは146百万トンで33番目。その他、タイは267百万トン、マレーシア253百万トン、UAE188百万トン。（出典：The World Bank）

以上